

千葉日報2013年11月18日

### 超高速計算機に前進

千倍の「量子もつれ」

超高速の計算を可能にする「量子コンピュータ」の実現に大きな前進となる技術を、古沢明東京大教授（量子光学）らが開発し、17日付の科学誌ネイチャーフォトニクス電子版に発表

した。

光の粒（光子）を計算に使うための「量子もつれ」と呼ばれる現象を、従来の千倍以上の規模で作りに出すことに成功した。古沢教授は「もつれの規模としては、実用レベルに達したと言える」と話している。